# 令和８年度小平市立小平第三中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## １　調査目的・対象

**児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。**

**（１）教科に関する調査**

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

**（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

## ３　各教科の調査結果の分析

### 【国語】

**状況の分析**

平均正答率が全国の平均と比べて７.１ポイント高く、都の平均より３ポイント高い。１５問中、１４問の正答率において、全国と都の平均を上回っており、基礎的・基本的な学力をしっかりと身に付けていることが分かった。日々の授業に真剣に取り組んでいる結果であると考えられる。

**課題**

記述式の問題の正答率が５１.７ポイントと低い。特に、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを書く問の正答率が４５.５ポイントと低い。文章を読んで必要な情報に着目してそれらを簡潔に要約する力を身に付けられるようにする必要がある。

**学校で取り組む具体的な改善策**

①　文章を理解するために必要な語彙力を高めるために、単元ごとに国語辞典などを活用した意味調べや短文づくりに取り組む時間を設ける。
②　文学的な文章に多く触れる機会を設け、豊かな表現力を身に付けられるようにする。
③　話し合い活動で互いの立場や考えを尊重しながら、自身の考えをまとまる活動を取り入れる。
④　論理的な文章を書く力を高めるために、作文に取り組む時間を増やす。

### 【数学】

**状況の分析**

平均正答率が全国の平均と比べて１１ポイント高く、都の平均より６ポイント高い。全ての問題の正答率においても全国と都の平均を上回っており、基礎的・基本的な学力をしっかりと身に付けていることが分かった。日々の授業に真剣に取り組んでいる結果であると考えられる。

**課題**

思考・判断・表現を問う問題の正答率が５１.１ポイントと低かった。特に、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を説明する問の正答率が４２.０ポイントと低かった。また、累積度数の意味を理解しているかを問う問題の正答率も４８.０ポイントと低かった。

**学校で取り組む具体的な改善策**

①　文章題などの問題において、教員の解説を聞くだけではなく、自分で考える時間を確保して、粘り強く取り組む習慣を身に付けることができるようにする。
②　５０分の授業内で問題演習や教え合いなどの活動を取り入れ、授業内容の理解度を高められるようにする。スタディサプリなどのＩＣＴ教材を活用し、思考力・判断力・表現力を高めるようにする。

【英語】　　状況の分析　　課題

| 状況の分析 | 課題 |
| --- | --- |
| 平均正答数４.６問は全国と都の平均を上回り、全ての問題の正答率が全国の平均を上回っていた。基礎的・基本的な知識を身に付けていることが分かったが、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率は高くなく、「書くこと」に課題が残った。 | 英文を読み、事実や自分の考えをまとめて文章にする問の正答率が低かった。「知識・技能」に関する問の正答率は高いが、習得した英単語や英文法などの知識を活用する力が身に付いていないことが考えられる。 |

学校で取り組む具体的な改善策

① スタディサプリなどのＩＣＴ教材を活用し、授業で学習した内容の理解を深め、知識を活用する力を高める。
② 普段の授業で自分の気持ちや考えを短い英文で書くことで、英作文を書く力を高めるようにする。
③ 単元の最後の授業でスピーチなどの自分の考えを相手に伝える活動を通して、内容をまとめてそれらを英文にする活動を多く取り入れていく。

【質問紙】　　状況の分析　　課題

| 状況の分析 | 課題 |
| --- | --- |
| 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問に対して８５.５％の生徒が肯定的な回答をしている。また、「友達関係に満足していますか」という問に対しても８９.７％の生徒が肯定的な回答をしている。多くの生徒が安心して学校に登校できていることで、学習にも集中して取り組めていることが分かる。 | 「国語の勉強は好きですか」「英語の勉強は好きですか」という問に対して全国平均を下回る結果となっている。基礎的・基本的な知識や技能を身に付けてはいるが、主体的に学習に取り組めていない生徒も多いことが分かる。学習する意義を生徒が見出し、主体的に学習に取り組めるような授業実践を行う必要がある。 |

学校で取り組む具体的な改善策

研修主任の指示の下、各教職員がＩＣＴ機器を効果的に活用した授業実践に取り組むことで分かりやすい授業づくりに努め、生徒の興味・関心を高めることができるようにしている。その結果として、生徒の学力は安定しており、今年度の学力調査の結果も全ての教科で全国平均を上回る結果となった。しかし、土曜日や日曜日などの学校が休みの日の学習時間に関しては、５０.３％の生徒が「２時間未満」と回答していることから、主体的に学習に取り組んでいる生徒は多くなく、学習をいわゆる「受け身」の状態で取り組んでいることが分かる。学習する内容が日常生活とどのように関わっているのかを生徒が理解することが大切である。「主体的に学習に取り組む態度」を育む授業づくりの実践とそのための研鑽を各教職員が積んでいく必要がある。